



さくら市地球環境にやさしい小都市宣言

～二酸化炭素排出量実質ゼロに向けて～

さくら市は山岳地を水源とした鬼怒川、荒川、内川などが貫流し、これら豊富な水源を利用した水田の広がりや緑豊かな丘陵地が連なり、日光連山、高原山及び那須連峰を背景に、里地里山の美しい景観の融合が見られるなど、魅力ある自然に恵まれています。

しかし、近年、国内外で様々な気象災害が発生しています。個々の気象災害と気候変動問題との関係を明らかにすることは容易ではありませんが、気候変動に伴い今後、豪雨や猛暑のリスクがさらに高まると予想されています。

気候変動の影響は、降水量、海面水位の変化、生態系の喪失といった自然界における影響だけでなく、甚大な風水害の発生、インフラや食糧不足、水不足など人間社会を含めて深刻な影響が想定されており、本市においても気候変動の影響は他人事ではなく、強い危機感を持つ必要があります。

気候変動の原因となっている温室効果ガスは、市民の日常生活、事業活動に伴い排出されていることから、温室効果ガス削減に向けて、誰もが無関係でなく、あらゆる主体が積極的に取り組む必要があります。誰もが安心して暮らせる持続可能で豊かな自然環境を次世代につないでいくために、そして未来のさくら市のため、市民、事業者を含む様々なステークホルダーと連携を図りながら『2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロ』の実現と『地球環境にやさしい小都市』を目指すことを宣言いたします。

令和6年3月15日

さくら市長

花塚隆志